

# 豊橋市地球温暖化対策地域推進計画の改訂に係る ヒアリング結果のまとめ

## 1 概要

### (1) ヒアリングの趣旨

本ヒアリングは、「第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画」の改訂にあたり、市民団体・事業者等から地球温暖化対策・脱炭素取組等に対する意識と課題、施策等に対する提言等を抽出することにより、市民・事業所等の意見を計画に反映させるとともに、豊橋市の将来像を聞き取ることにより本計画で目指すべき将来ビジョンを明確にすることを目的として実施しました。

### (2) 日程及び対象

本ヒアリングは令和7年2月26日から3月10日にかけて実施しました。

ヒアリング日程及び対象は以下のとおりです。

実施日	カテゴリ	対象
2月26日	事業所	豊橋商工会議所
2月26日	事業所	サーラエナジー株式会社
2月27日	事業所	日東電工株式会社
2月27日	組合	JA 豊橋
2月27日	事業所	日本フルーツジュース株式会社
2月27日	市民団体	豊橋市自治連合会
2月28日	事業所	豊橋鉄道株式会社
2月28日	事業所	中部電力パワーグリッド株式会社 豊橋支社
2月28日	事業所	三菱ケミカル株式会社
2月28日	学識	豊橋技術科学大学 准教授
2月28日	市民団体	豊橋女性団体連絡会
3月4日	事業所	三遠機材株式会社
3月6日	学識	豊橋技術科学大学 教授
3月6日	事業所	穂の国とよはし電力株式会社
3月10日	学識	豊橋創造大学 教授

## 2 意見の概要

### (1) 現状の取組について

#### ①事業者の取組状況

##### ◆ 製造業の主な取組

- ・ LED 照明導入、再エネ電力購入、事業所屋根への太陽光パネル設置、ZEB 認証の取得、毎年 1% 省エネ目標設定、蒸気使用量削減、自主的な電気使用量削減

##### ◆ 運輸業の主な取組

- ・ バス車両の定期更新（5 台/年）による環境負荷低減、持ちビルのボイラー小型化

##### ◆ 農業関連の主な取組

- ・ 節水型・省エネ農業機械の導入の推進、畜産廃棄物の堆肥化・農地還元

##### ◆ エネルギー関連事業者の主な取組

- ・ 自社遊休地や施設屋根での太陽光発電導入、オフセットガスの提供、事業者に対する省エネ提案、地産電力の調達を順調に進め市役所 RE50 達成、スマートメーターを活用した省エネの取組、無効電力の削減提案

#### ②市民団体の取組状況

- ・ 環境に関する学習会開催、生ごみの堆肥化、公共交通機関の利用促進、地域清掃活動、環境啓発活動、地域防災活動の一環としてポータブル電源の導入

### (2) 評価されている市の取組

- ・ 太陽光パワーコンディショナー更新への補助制度：設置後約 10 年でパワーコンディショナーが寿命を迎え、太陽光発電が停止するケースが多い中、継続的な発電を支援するための更新補助制度は先進的な取組で評価できるとの意見
- ・ 530 運動の伝統と環境意識の高さ：530 運動発祥の地として市民の環境意識が高い点が地域の特長として評価
- ・ 豊橋市バイオマス利活用センターでの下水汚泥・生ごみ活用発電：先進的な取組として評価
- ・ 穂の国とよはし電力による地産電力の調達推進：市役所 RE50 達成に向けた地産電力の調達が順調に進んでいる点が評価

### (3) 現状の課題について

#### ①事業者が直面する課題

##### ◆ 経済的課題

- ・ 脱炭素設備導入の初期投資コストが高い
- ・ 資材高騰等による PPA 事業の収益性悪化
- ・ 投資回収期間の長さ
- ・ 主業務の状況悪化による環境投資の後回し

##### ◆ 技術的・物理的課題

- ・ 太陽光パネル設置スペースの限界
- ・ 電気自動車の航続距離不足

##### ◆ 人材・意識面の課題

- ・ 脱炭素化に向けた人材・知識不足
- ・ 現状把握や排出量算定の困難さ
- ・ 業種による脱炭素意識の差

#### ②市民・団体が直面する課題

##### ◆ 情報・意識面の課題

- ・ 脱炭素の「自分ごと化」が進んでいない
- ・ 「脱炭素」という言葉がわかりにくい
- ・ 地球温暖化対策よりも防災等他のテーマへの関心が高い

##### ◆ 生活面の課題

- ・ 公共交通の不便さによる自動車依存、高齢者の移動手段確保の困難さ
- ・ EV 充電設備の不足

### (4) 地球温暖化による地域への被害について

#### ①自然災害

- ・ 集中豪雨の増加

#### ②農業

- ・ 気温上昇による農作物への影響（キャベツ、次郎柿）
- ・ カメムシ等の害虫越冬による農作物被害
- ・ 海外で温暖化が原因の害虫被害が発生し、輸入・加工事業を行う市内事業者に影響

### ③熱中症

- ・ 熱中症リスク増加による地域活動の制限
- ・ 夏場の屋外作業による熱中症リスク

## (5) 今後取り組んでほしい施策・取組について

### ①経済的支援策

- ・ 脱炭素設備導入に対する補助金・減税措置
- ・ 中小企業向け省エネ診断への補助
- ・ ZEB 関連調査・導入支援
- ・ 地域への蓄電池導入支援
- ・ ソーラーカーポート導入支援
- ・ 脱炭素取組企業への税制優遇

### ②情報提供・普及啓発

- ・ 脱炭素の必要性に関する啓発強化
- ・ 省エネによるコスト削減効果の見える化
- ・ 他企業の成功事例の共有
- ・ 行政からの情報発信強化・分かりやすい情報提供
- ・ 小中学校等での環境教育強化

### ③インフラ整備・社会システム

- ・ 公共交通機関の利便性向上
- ・ EV 充電設備の拡充
- ・ コンパクトシティの推進
- ・ 農地の集約化・効率化
- ・ 再エネポテンシャルの活用（風力発電導入等）

## (6) 2030年、2050年の「豊橋市のあるべき姿」

### ①まちづくり、地域全体に関すること

- ・ 豊橋市には東三河の中核市としてのリーダーシップを取ってほしい
- ・ コンパクトシティの推進による公共交通中心のまちづくり
- ・ 自然環境と都市機能が調和したまち
- ・ 安全安心で高齢者にも住みやすいまち
- ・ 環境・農業・工業がバランスのとれたまち

## ②エネルギーに関すること

- ・ エネルギー自給率の高いまち
- ・ 多様な再エネ（太陽光・風力・廃棄物発電等）の活用
- ・ サーキュラーエコノミーの実現

## ③その他

- ・ 脱炭素と経済成長の両立
- ・ 農業を中心とした食の豊かさ
- ・ 先進技術による産業集積
- ・ 若者に魅力ある就業環境の整備

## 3 総括

### ◎ 重点課題に関するキーワード

- ・ 特定事業者<sup>1</sup>
- ・ 中小企業
- ・ 公共交通
- ・ 再エネ導入
- ・ 気候変動適応

### ◎ 実行性を高める施策

- ・ 普及啓発
- ・ インセンティブ
- ・ 協働・パートナーシップ

### ◎ 市民、事業者が望む本市の将来像

- ・ 自然環境と都市機能が調和し、安心安全でだれもが住みよいまち
- ・ 産業、環境、社会のバランスが取れたまち
- ・ 地域資源を最大活用し、エネルギーの自給自足を達成するまち
- ・ 東三河の中心都市として、環境・経済・社会の諸課題解決に向けたリーダーシップを発揮するまち
- ・ コンパクトで快適な、歩いて暮らせるまち

---

<sup>1</sup> 温室効果ガスを多量に排出している事業所のこと